

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	USTREAM Asia 株式会社
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>超高速ブロードバンド基盤の未整備エリアにおける基盤整備に賛成します。</p> <p>あらゆる人がいつでもどこでも自由に情報通信基盤にアクセスできる状況を生み出し、インフラ産業、ハードウェア産業のみならず、その上位レイヤーであるソフトウェア産業、サービス・プラットフォーム産業、コンテンツ・クリエイティブ産業におけるイノベーションを促し国際競争力のある産業を創出し、これら新産業を日本の経済成長の牽引役とすべきである。</p> <p>また、環境整備を行うことにより未整備エリアのデジタルデバイドといった負の側面を逆転させ、地域教育・医療の推進、一次、二次産業の高度化、伝統工芸、祭りや伝承などの独自文化の情報発信などにより多様性のある豊かな社会の実現を目指すべきである。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>料金が高ければ利用が進まないことは自明の理で、誰もが低廉な料金で超高速ブロードバンドを利用できるよう、通信事業における公正競争を促すよう政府はさらなる措置をとるべきである。</p> <p>これにより、国民一人一人のデジタル技術を使いこなす能力の向上と、日本の豊かな文化による創造力の融合を促進させ、世界一のデジタルユーザ大国が構築される。この環境から絶え間ない新しい挑戦と失敗によるイノベーションが生まれ、世界に通用する経済成長のけん引役が創出されると考える。</p> <p>特に、日本のコンテンツやクリエイティブは世界でも高く評価されているが大きな成功を示している例は少なく、多くのクリエイターやサービス事業者が新しい挑戦を促すような環境整備も同時に行われるべきである。</p>